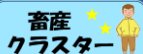


平成28年度畜産・酪農生産力強化対策事業(繁殖性等向上対策のうち効率的な生産体系の確立に向けた技術支援)の概要

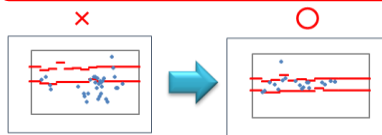
- 最新の技術を習得した畜産技術者の指導の下、地域内での繁殖雌牛の増頭に向けた技術的なボトルネックの解決を図ることが重要
- このための地域の創意工夫に基づく取組に必要な器具・装置の導入を支援(補助率:1/2以内)



肉用牛を対象とした地域における技術の実証 (平成29年度実施)

繁殖性の向上

・代謝プロファイルテスト



(例)MPTによる血中グルコース濃度の適正化

血液検査により、牛群の健康状態を把握し、飼料の栄養バランスを調整すること等により受胎率の向上を図る。

・早期妊娠診断



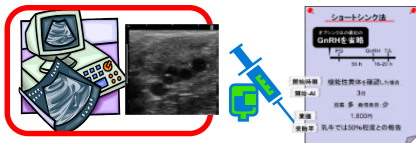
早期の妊娠診断等を行うために超音波診断装置等を利用し、空胎期間の短縮等を図る。

・経膈採卵(OPU)



超音波診断装置を用い、OPU技術を活用し、ウシ生体卵から卵子を採取し、受精卵の生産性の向上を図る。

・ホルモンの作用



超音波診断装置により、各個体の卵巣所見を見極め、ホルモンを用いた排卵の同期化を行うことにより、(ショートシンク法)、妊娠率の向上を図る。

子牛の損耗低減対策

・代謝プロファイルテスト

血液検査により、牛群の健康状態を飼料の栄養バランスを調整すること等により、子牛の損耗率の低減を図る。

・子牛の個別管理

カーフハッチ等により、子牛を個別に隔離、管理することで、病気の蔓延等による子牛の損耗率の低減を図る。



・哺乳ロボット

代用乳の少量多回給与により、子牛の消化機能への負担を軽減し、給餌性の下痢を減らすこと等により、子牛の損耗率の低減を図る。



肥育用の雌牛等を用いた増頭対策

・一産取り肥育



未経産肥育雌牛や高齢雌牛に対して、和牛の受精卵を移植し、計画的に和子牛を得る一産取り肥育を行うことにより、和子牛を生産させるための取組を図る。

最新の技術を習得した畜産技術者で行う、地域における課題解決のための技術実証により和牛の基盤を拡大を図る